

2022 年度 1 年次 9 月

「学びと成長の歩みの記録」アンケート（抜粋版）

「学びと成長の歩みの記録」の概要

立教大学では、2022 年度に入学した学生を対象に「学びと成長の歩みの記録」（学修状況調査）のアンケート調査を実施しました。

「学びと成長の歩みの記録」のコンセプトは「学生自らが、[RIKKYO Learning Style](#)の各学修期（『導入期』『形成期』『完成期』）に合わせて自身の学修成果をふりかえり、成長の変化を自覚できること、そして、大学としてその結果を分析・検証し教育の改善に活用すること」です。

今回は「導入期」にあたる1年次春学期終了時点の新入生を対象に実施しました。今後、在学中に継続的なアンケート調査を実施し、「導入期」「形成期」「完成期」を通じた学びと成長の過程を追っていきます。

この資料では集計・分析結果の一部を抜粋してご紹介します。アンケート調査にご回答いただいた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。立教大学では、今回の結果を踏まえてこれからの教育の改善に活かしていきます。

実施時期：2022 年 9 月

調査対象：2022 年度学部 1 年次生（2022 年 4 月入学）

調査方法：全数調査（オンライン調査）

調査目的：RIKKYO Learning Style の「導入期」にあたる1年次春学期終了時点での新生を対象に実施することで、立教大学での学びや過ごし方について学生自身がふりかえり、大学としてその結果を教育の改善のために活用すること。

回答数と回答率

対象学生数：4,629 名 回答数：2,169 名 回答率：46.9%

学部	対象学生数	回答者数	回答率
文学部	896	409	45.6%
経済学部	681	309	45.4%
理学部	285	156	54.7%
社会学部	534	235	44.0%
法学部	577	217	37.6%
観光学部	364	152	41.8%
コミュニティ福祉学部	407	229	56.3%
経営学部	389	179	46.0%
現代心理学部	321	190	59.2%
異文化コミュニケーション学部	161	80	49.7%
GLAP*	14	13	92.9%
合計	4,629	2,169	46.9%

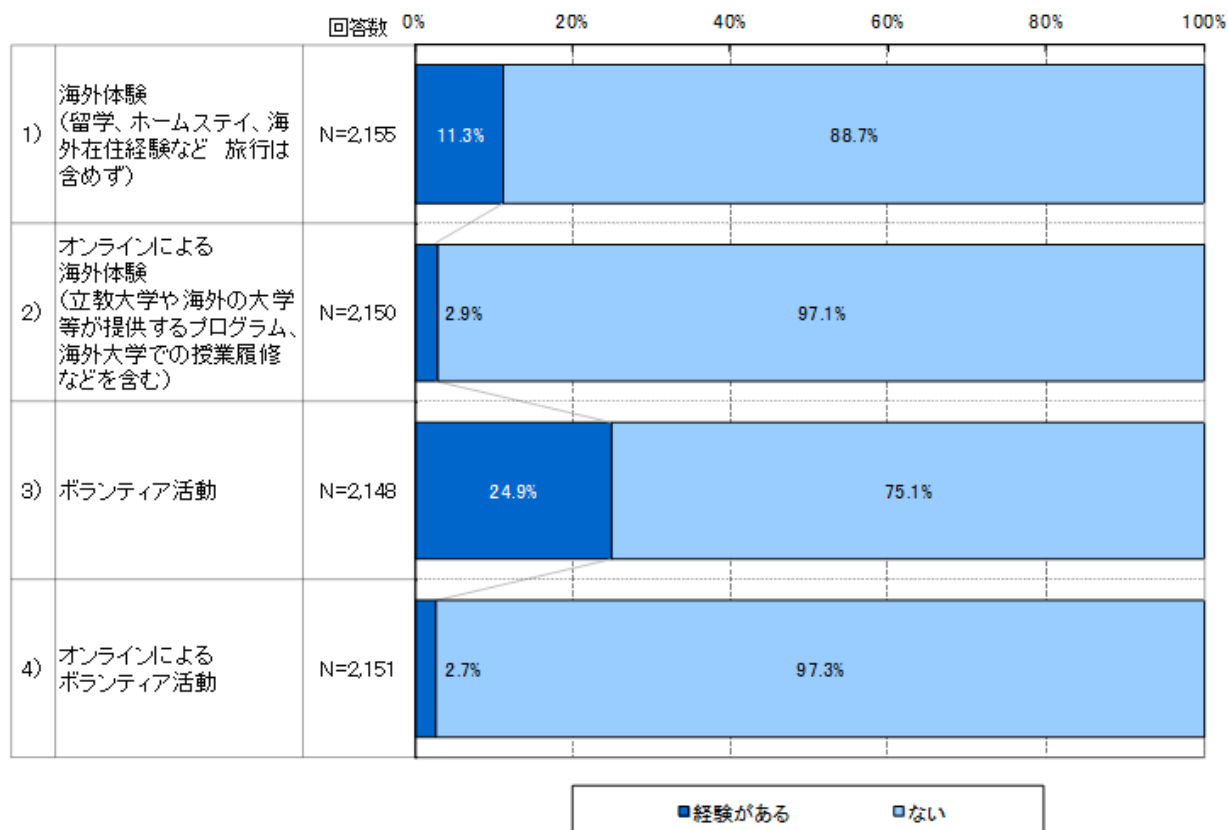
*注) GLAP：グローバル・リベラルアーツ・プログラム

調査結果（抜粋）

本調査で得られた調査・分析結果の概要を抜粋してご紹介します。

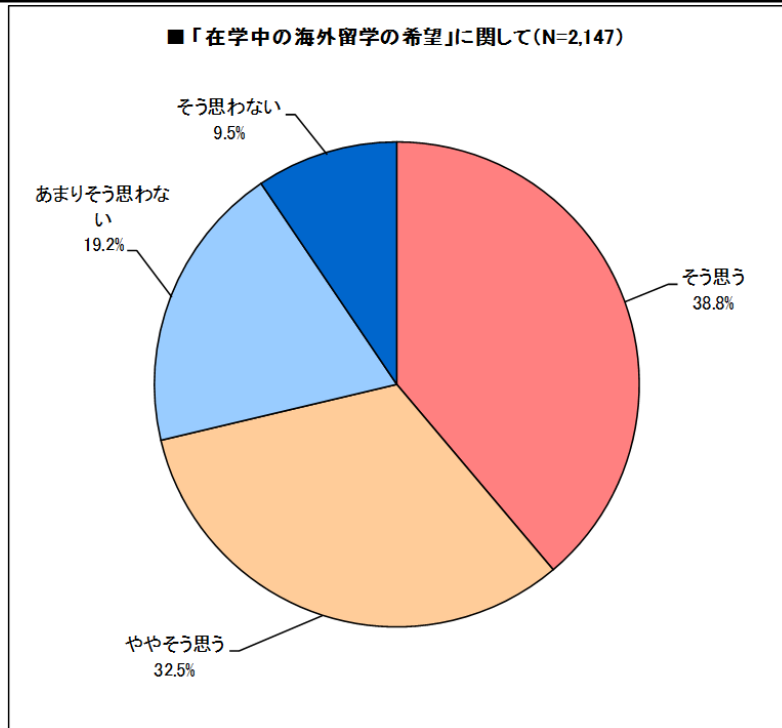
■Q1. 春学期（2022年4月～7月）の経験

- 海外体験を経験した学生は11.3%、オンラインによる海外体験を経験した学生は2.9%、ボランティア活動を経験した学生は24.9%、オンラインによるボランティア活動を経験した学生は2.7%でした。



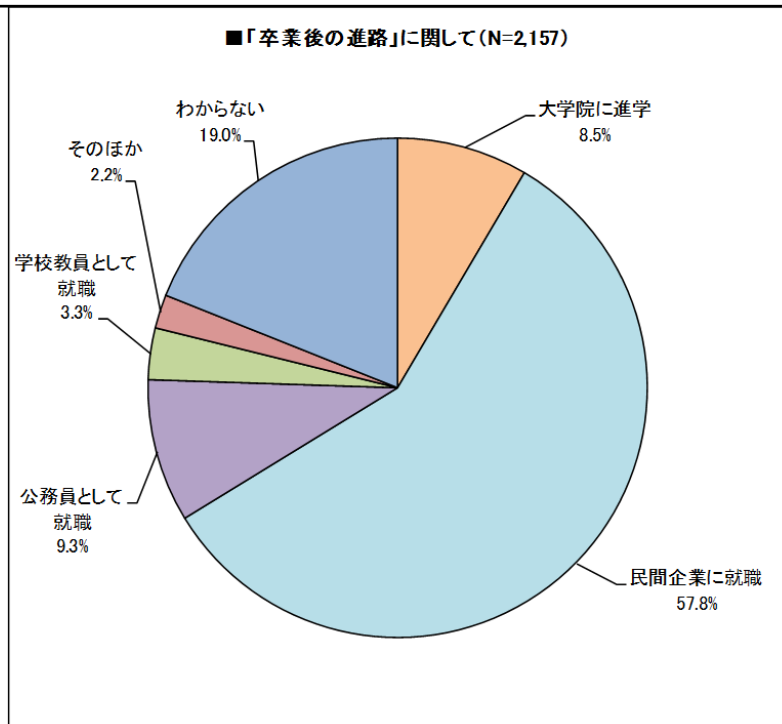
■Q2. 在学中の留学意向

- 在学中の留学に対する意向を尋ねたところ、「そう思う」が 38.8%、「ややそう思う」が 32.5%、「あまりそう思わない」が 19.2%、「そう思わない」が 9.5%で、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、7割以上の学生が留学したいとされていることがわかりました。



■Q3. 卒業後の進路意向

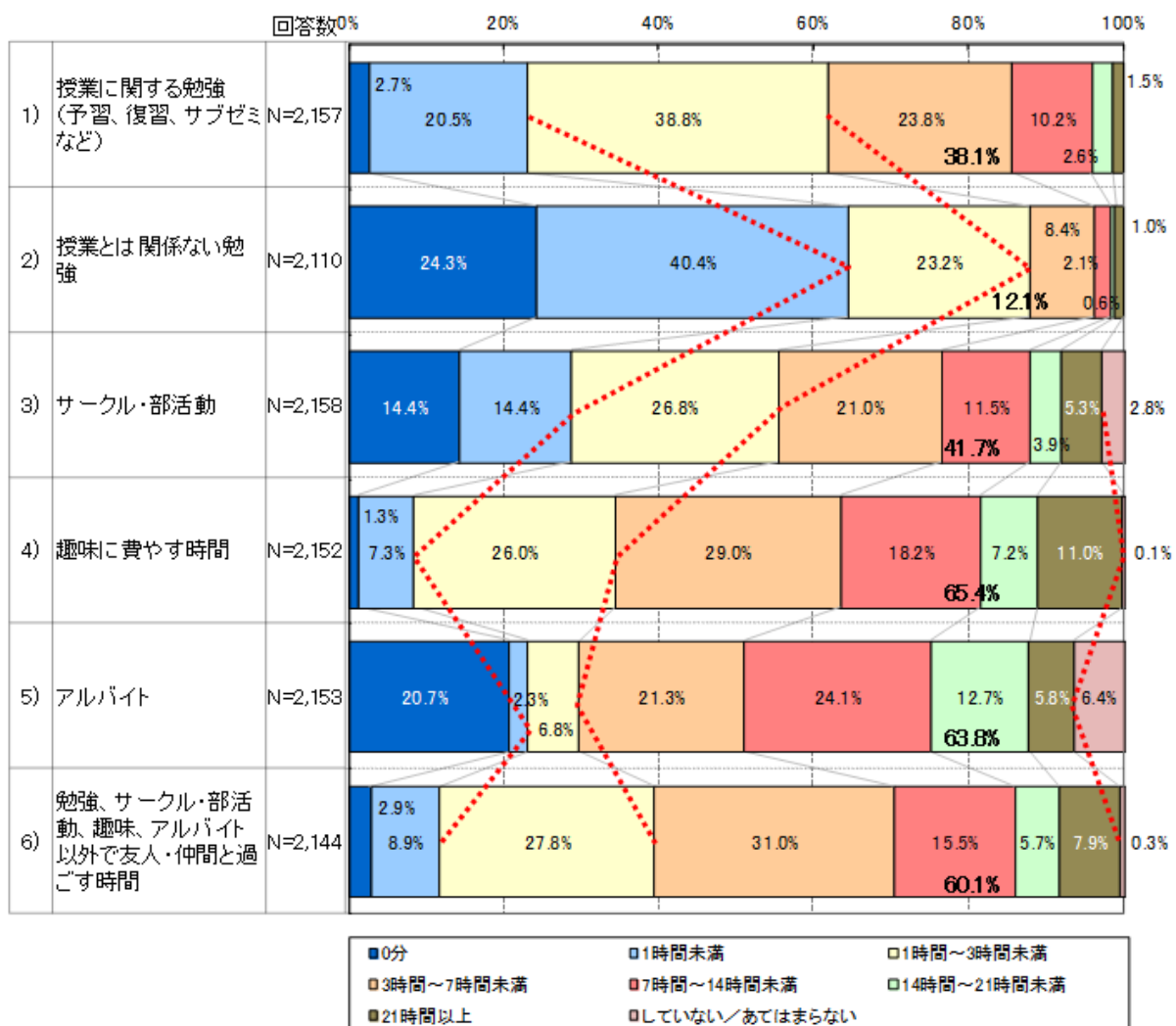
- 卒業後の進路の意向について尋ねたところ、「民間企業に就職」が最も多く 57.8%、「わからない」が 19.0%、「公務員として就職」が 9.3%と続いていました。



■Q4. 学生生活（1週間あたりに費やした時間）

- 春学期にそれぞれの活動に費やした時間（1週間あたりの平均）を尋ねたところ、授業に関する勉強では、「1時間～3時間未満」が最も多く38.8%、次いで「3時間～7時間未満」が23.8%となっていました。授業以外での勉強では、「1時間未満」が最も多く40.4%、次いで「0分」が24.3%となっていました。
- サークル・部活動では、「1時間～3時間未満」が最も多く26.8%、趣味に費やす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く29.0%、アルバイトでは、「7時間～14時間未満」が最も多く24.1%、これら以外の友人・仲間と過ごす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く31.0%となっていました。

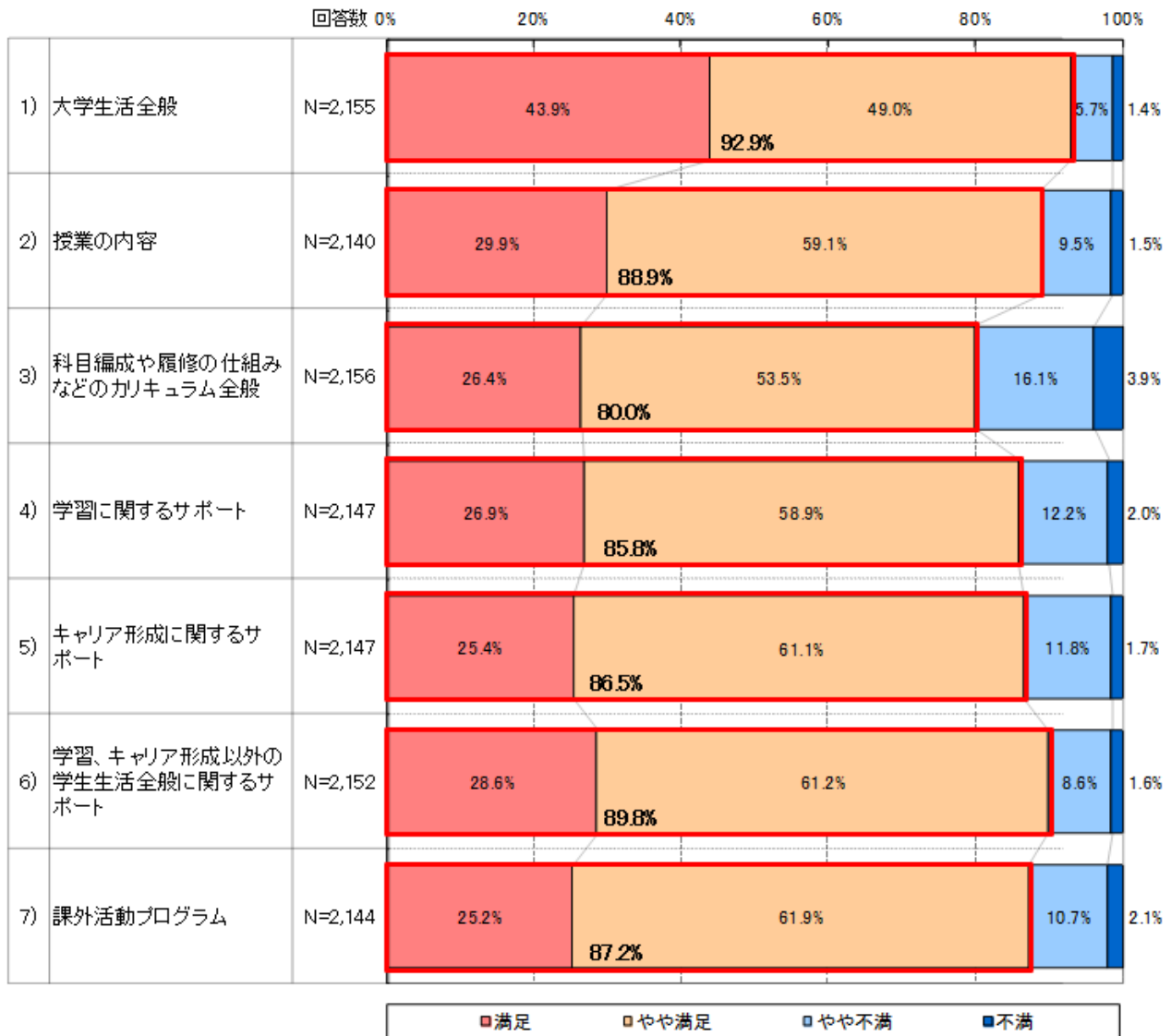
■「春学期に各活動に費やした時間(1週間あたり)」に関して



※1)授業に関する勉強、2)授業とは関係ない勉強の2つの質問には「していない/あてはまらない」という選択肢は用意していない。

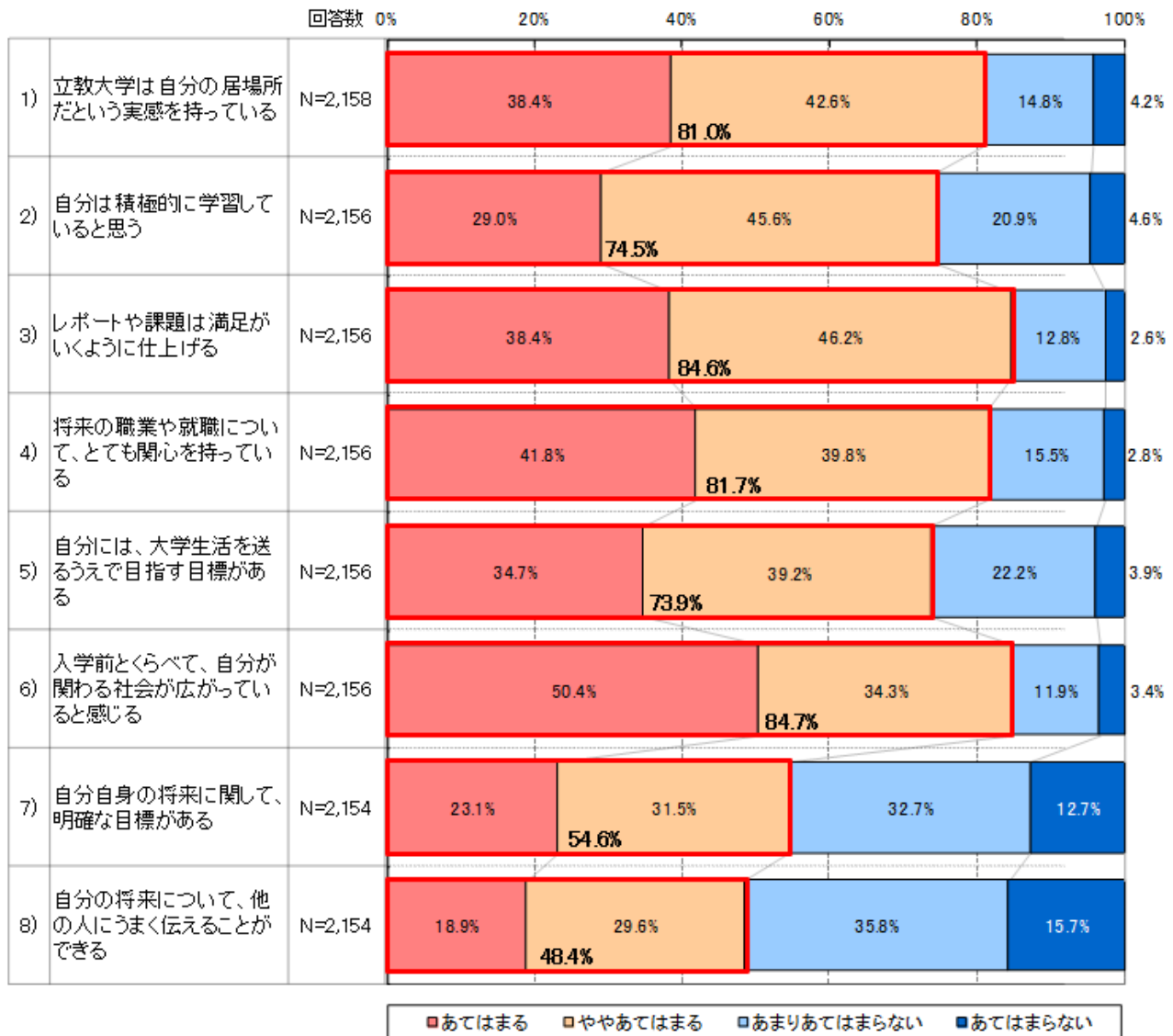
■Q5. 満足度

- 立教大学の各項目への満足度を尋ねたところ、「満足」「やや満足」を合わせると、全体的に8割以上の学生が立教大学での授業やサポートについて満足していると回答していました。



■Q6. 大学生活・学修について

- 大学生活や学修についての認識について尋ねたところ、Q6.1～Q6.6の現在の大学生活や学習、進路に関する各質問項目では、7割以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q6.7「自分自身の将来に関して、明確な目標がある」、Q6.8「自分の将来について、他の人にうまく伝えることができる」では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が半数程度となっており、導入期である1年次9月の時点では、自身の将来を明確に描けていないと思っている学生が多くいました。今後の大学生活や大学のキャリア支援を通して、形成期、完成期でどのような変化が見られるのか注視していく必要があります。



■Q7. 「立教大学 学士課程教育の目的」の学修成果

- 立教大学の学士課程教育の目的（ディプロマ・ポリシー）と関連する各項目について尋ねたところ、Q7.1、Q7.2、Q7.4～Q7.14では、過半数の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q7.3の専門的な学問の執筆力を尋ねる項目では過半数の学生が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していました。導入期である1年次9月の時点では、入学から半年ということも影響していると思われませんが、今後、形成期、完成期での学修を経て、専門領域に関する自己評価が高まっていくことが期待されます。

